

高密度播種苗移植（密播・密苗）

作物

県北農林事務所安達農業普及所

1 技術の特徴

○1箱当たり慣行の2～3倍の播種（乾粃250～300g）を行うことで、使用箱数が1/2となり慣行と同等の収量を得ながらも、低コスト、省力化を可能とする。

○メーカー名：ヤンマーアグリジャパン（株）



図1 密苗生育（播種14日目）



図2 移植作業風景

2 省力・低コストの効果

○慣行とほぼ同等の収量を得ながら、作業時間の短縮、作業者の軽労化、コスト削減につながった。

	密苗	慣行	慣行比
播種量（乾粃）（g/箱）	300	150	200%
使用箱数（枚/10a）	5.6	11.6	48%
播種作業時間（分/ha）	41	70	59%
移植作業時間（分/ha）	21	24	88%
育苗に係る資材コスト（円/10a）	3,405	5,895	58%
単収（kg/10a）	512	533	96%

3 メリットと留意点

○稲作作業における大幅な省力化や軽労化の効果が期待でき、一層の規模拡大や経営の多角化の可能性が生まれる。

▲育苗期間が20日間と短く、苗の老化も早いことから、ほ場準備も意識した育苗・田植え計画を作成する必要がある。

経営モデル

県北農林事務所安達農業普及所
作物名：水稲

50haの稲作経営体が高密度播種移植栽培田植機を導入し、全て密苗で栽培した場合を想定した経営モデル。

前提条件

項目	内容	
想定モデル規模	労働力	4名（臨時雇用〇名）
	栽培面積	50ha
	品種	コシヒカリ（20ha） 天のつぶ（20ha） その他（10ha）
栽培方法	作型	移植栽培（50株/坪）
	播種量（乾籾g/箱）	密苗300g
	使用箱数（箱/10a）	密苗6箱

導入コスト

資材名	数量	耐用年数	金額(円)
密苗田植機	2	7	7,782,000
播種装置	1	7	405,000
合計			8,187,000

項目	技術導入前又は慣行 (面積：50ha)	技術導入後 (面積：50ha)	補足説明 (注意事項等)
生産量 t	270	270	○育苗期間が20日と短く、代掻き、田植え作業のスケジュールを意識した播種が求められる。 ○箱施薬の投入量が少なく病害虫発生リスクが高まることから、側条施薬機の導入も検討する必要がある。
(生産量 (kg) /10a)	540	540	
販売額 (千円)	59,670	59,670	
(単価円/kg)	221	221	
経営費 (千円)	52,151	51,290	
うち 種苗費	491	491	
肥料費	4,755	4,755	
農薬費	2,331	1,874	
小農具費	200	200	
諸材料費	611	384	
光熱動力費	3,482	3,482	
流通経費	12,879	12,879	
減価償却費	19,499	19,518	
雇用労働費	1,809	1,613	
その他※	6,094	6,094	
農業所得 (千円)	7,519	8,380	

※その他：賃借料、共済掛金、租税公課、土地改良水利費、地代など